

リリースノート

EFI™は、Fiery® proServer と Fiery XF 7 のリリースを発表します。この最新のリリースは、EFI ソフトウェアメンテナンスおよびサポート契約 (SMSA) または EFI Enhanced Service Program (ESP) が適用される Fiery proServer ソフトウェアまたは Fiery XF を使用するすべてのユーザーに無料で提供されます。

概要:

Fiery proServer と Fiery XF 7 は、ワイド印刷とスーパーワイド印刷用 Fiery デジタルフロントエンドの EFI 次世代サーバーとシステムです。この重要なリリースには多くのメリットがあります。

Fiery Command WorkStation®:

- 世界で最も一般的なデジタル印刷ジョブ管理インターフェイスを、ワイドプリンターとスーパーワイドプリンターのユーザーも利用できるようになりました。
- このインターフェイスは、Fiery Driven™ワイドプリンター、スーパーワイドプリンター、高速インクジェットプリンター、またはカットシートプリンターの印刷ジョブを管理できる共有ユーザーインターフェイスです。
- 一度に複数の Fiery サーバーに接続し、これまでにない方法で複合テクノロジー印刷環境を真に統合します。
- 簡単でスピーディーな操作 - 数ステップで Fiery サーバーに接続すると同時に複数のサーバーに接続して印刷室を完全に制御することができます。
- macOS と Microsoft® Windows®オペレーターの双方が、比類のない能力と有用性を同等に享受できるため、現在、25 万人を超えるユーザーが利用しています。
- オンデマンドでのジョブ編集からワークフロー全体の自動化、およびそれにかかわるあらゆるレベルでジョブのハンドリングが最適化されています。
- 最終的なワークフロー、用紙およびジョブ編集に対し、直観的なジョブ管理を行えます。
- パワフルな検索とフィルタリング機能が備わっているため、簡単かつスピーディーにジョブを探してグループ化できます。
- コンテキストに対応するインテリジェントなユーザーインターフェイスが搭載されており、状況に応じて必要な機能のみが表示されます。
- 改善された環境 - プリンター「環境」を保存すると、プリンターに関連付けられているすべてのワークフローと用紙も一緒に保存されるようになったため、複数のサーバーで完全な「プリンター」定義を極めて簡単にコピーできます。



より高い性能と生産性：

- Fiery XF では、パフォーマンスを高めるための EFI 専用 Fiery Accelerated System Technology (FAST RIP) も搭載されたため、平均で 5 倍処理速度が速くなりました。
- Esko i-cut、Zünd G3、および S3 シリーズのカットデバイスでバーコードを作成できます。
- 各タイルを処理するための、性能が向上した新しいタイリング機能が搭載されています。
- ジョブ設定をワークフローとして保存し、同じプロパティを他のジョブに簡単に適用することができます。

言語サポートの拡大：

- Fiery XF サーバー、Fiery XF クライアント (Fiery Command WorkStation) 、および Fiery XF Universal Driver 用に別途 8 つの言語をサポートしています。
 - ブラジル・ポルトガル語
 - チェコ語
 - オランダ語
 - 韓国語
 - ポーランド語
 - ロシア語
 - 繁体字中国語
 - トルコ語

新しいプリンタードライバー：

- キヤノン
 - imagePROGRAF iPF TX-2000 (RGB & CMYK 連続階調)
 - imagePROGRAF iPF TX-3000 (RGB & CMYK 連続階調)
 - imagePROGRAF iPF TX-4000 (RGB & CMYK 連続階調)
- EPSON
 - SureColor SC-F6200/6270/6280 (CMYK ハーフトーン)
 - SureColor SC-F7200/7270/7280 (CMYK ハーフトーン)
- HP
 - Designjet T7200 (CMYK 連続階調)
- Mimaki
 - UJV55-320
 - UJV500-160
 - TS300P

更新されたプリンター：

- 以下の EFI プリンターでは、インク消費量をトラッキングできるようになりました。
 - EFI Quantum 3/5



- EFI QuantumFlex 3/5
- EFI Matan 3/5
- EFI VUTEk 3r/5r

新しいソフトウェア専用保護システム：

- バージョン7ではUSB ドングルを必要としませんが、その代わりに、柔軟性のあるソフトウェア保護機能が使われます。この機能で、エンドユーザーは1つのFiery から別のFiery に無料でライセンスのホストを再度割り当てることができます。

バージョン7のリリースでの重要な変更点：

- macOS 用の Fiery XF サーバーは廃止され、現在、Fiery XF サーバーは Microsoft® Windows®のみに対応しています。
- Fiery Command WorkStation は引き続き macOS と Windows プラットフォームの両方に対応します。
- トナーとレーザープリンター（KIP と OKI 製品）は、バージョン7ではサポートされなくなります。
- 以下の製品オプションは Fiery XF 7 の発売以降廃止となります。ユーザーが既存のドングルから Fiery XF 7 に移行した場合、ユーザーインターフェイスで以下のオプションを利用できないほか、以下のオプションを Fiery XF 7 用に購入することもできません。
 - OneBit Option
 - Softproof Option
 - Printer Option OKI
 - Printer Option KIP
 - Fiery Option
- 以下のオプションは既に廃止されているため、Fiery XF 7 インターフェイスで利用できません。
 - Dot Creator Option
 - Layout Option
- 以下のオプションは Fiery XF 7 で購入できませんが、以前のバージョンからバージョン7にアップグレードされている場合、従来通り動作します。
 - File Export Option
 - Printer Option EFI
 - Print & Cut Option（現在、通常の Printer Option M、XL、XXL の一部）
 - Spot Color Option（現在、すべての設定の一部）
- 以下のプリンターオプションには、適用される変更があります。
 - Printer Option XXL は、XL と M プリンターでも動作します。
 - Printer Option XL は、M プリンターでも動作します。
- Fiery XF 7 サーバーの RAM の最小システム要件が、16 GB になりました。

Fiery XF 6（およびそれ以前）と Fiery XF 7 の比較：

- Fiery XF 7 では、クライアント/サーバーアーキテクチャが維持されています。
- Fiery XF 6 では、サーバーは Fiery XF Control アプリケーションで制御されていましたが、Fiery XF 7 では、似た機能を持つ Fiery Server Control に変わります。
- バージョン7では、サーバーアップデートはサーバー用の Fiery Server Control で処理された後に、Fiery Command WorkStation 用の Fiery Software Manager で処理されます。各サーバーアップデートは独立しており、Fiery XF 6 のように各アップデートは関連付いていません。



- Fiery XF クライアントは完全に Fiery Command WorkStation に置き換わりました。
- Fiery Command WorkStation は、主に以下の3つのコンポーネントで成り立っています。
 - ジョブセンター (ジョブ管理)
 - Job Editor (ジョブ編集)
 - Server Manager (ユーザー、ワークフローおよびプリンターの定義)
- ジョブセンター
 - Fiery XF の以前のバージョンでは、ジョブ管理は Job Explorer で行われていました。Fiery XF 7 では、(Fiery Command WorkStation の一部としての) ジョブセンターは、すべての Fiery サーバーで広く使われる専用のジョブ管理ツールとして機能しています。
 - 以前の Job Explorer と異なり、ジョブセンターはジョブ管理とジョブ編集ツールという両方の機能を持たず、ジョブ管理のみを行います。
 - 整理整頓されたジョブセンターにより、処理する必要があるジョブを素早く簡単に特定できます。
- Job Editor
 - 以前のバージョンでは、ジョブの編集と管理は Job Explorer で行われていました。新しい Job Editor はジョブ編集専用であるため、より多くのプレビューと設定が行えます。
 - Job Editor は Fiery Command WorkStation から複数の方法でアクセスできます。ジョブ名またはプレビューをダブルクリックするか、ジョブ自体を右クリックしてアクセスします。
 - オンデマンドの編集やタスク (ステップ&リピート、タイリング/ネスティング、カラー調整、検証、クロッピング、裁断など) を Job Editor で実行できます。また、Server Manager ですでに指定されているデフォルト設定も実行できます。
- Server Manager
 - Fiery XF 6 では、ユーザー、ワークフローおよびプリンターは System Manager で定義されていました。バージョン7では、定義場所が Server Manager に変わります。
 - Server Manager では、新しいプリンターを Fiery サーバーに追加できるだけでなく、解像度、カラー、印刷モード、特殊なプリンター設定など、用紙やプリンターのデフォルト設定も行えます。
 - 一番大きな変化は、バージョン7ではプリンターと用紙が分離されることでより柔軟性が高まり、ユーザーインターフェイスでプリンターが重複しないようになっている点です。現在、Server Manager の一台のプリンターは印刷会社の一台の物理的なプリンターを表すようになっているため、ユーザーは複数のワークフローと用紙を各プリンターに割り当てて、様々なユースケースとメディアインベントリ用に準備することができます。
 - Fiery Command WorkStation の新しいインポートダイアログボックスで、ユーザーは以前のバージョンよりはるかに優れた柔軟性を享受し、ジョブのインポート時に使用中のプリンター、ワークフロー、用紙間の「関連性を見つける」ことができます。

使用状況：

- Fiery XF 7 は完全インストールのみ行えます。インストールは、ソフトウェアをダウンロードして行うか、DVD を使用して行います。Fiery XF 7 は以下の3つのインストーラーで構成されています。
 - EFI Fiery XF 7 サーバー (Windows)
 - EFI Fiery Command WorkStation 6.2 (Windows)
 - EFI Fiery Command WorkStation 6.2 (macOS)



- LAC（ライセンスアクティベーションコード）は、有効な SMSA/ESP ソフトウェア契約を行っている Fiery XF を所有するすべてのカスタマーに自動的に作成されます。この LAC は、インストール後に Fiery XF 7 ユーザーインターフェイスから使用できます。ユーザーは、バージョン 7 への移行中に既存の dongle が必要となります。バージョン 7 ではソフトウェアのみ保護されるため、Fiery XF Dongle は移行後に不要になります。
- Fiery 製品には EFI ソフトウェア契約が適用されないため、EFI の代理店または EFI 公認の再販業者が、所有している Fiery 製品に基づいて利用可能な Fiery アップグレードや EFI ソフトウェア契約オプションを提供します。
- EFI ソフトウェアの契約状況については、fierywideformatsupport@efi.com までお問い合わせください。

ソフトウェアメンテナンスおよびサポート契約 (SMSA) および *EFI Enhanced Service Program (ESP)*

Fiery proServer と Fiery XF 用の EFI ソフトウェアメンテナンスおよびサポート契約 (SMSA) と Enhanced Service Program (ESP) 契約では、機能、改善箇所、修正箇所、および最新のプリンタードライバーの継続的に提供します。上記の契約のいずれかが適用されている Fiery Software を所有しているすべてのカスタマーが Fiery XF 7 を無料で使用できます。

詳しくは、お近くの Fiery proServer または Fiery XF デイラーにお問い合わせるか、www.efi.com/fiery-for-inkjet を参照してください。EFI の統合されたソリューションポートフォリオにより、生産性が高まり、ボトムラインが上がります。詳しくは、www.efi.com を参照してください。

